

学校へ、そして飢えから抜け出す。

WFP

世界の学校給食キャンペーン

「貧しい子どもに食糧と教育を提供することは、
子どもたちの発育と国の発展を支援する上で最も重要な取り組みです。」

WFP 国連世界食糧計画 事務局長ジェームス・T・モリス



United Nations
World Food
Programme



飢えは子どもたちから 学習の機会を奪う

飢えが地域社会を襲うとき、最も被害を受けやすいのは子どもたちです。飢えは子どもたちの学習意欲も能力も奪ってしまいます。空腹にさいなまれる子どもにとって大事なのは、学校に行くことではなく、空腹を満たすのに十分な食糧を得ることです。世界では3億人の子どもたちが慢性的に飢えており、1億人はまったく小学校に通っていません。

貧しい人々の家には十分な食糧がなく、また開発途上国では、学校にも調理場や食堂がない場合が多いのです。空腹な子どもたちは注意散漫になりやすく、集中して学習することができません。こうした飢えは、子どもたちの学習能力の向上を妨げます。深刻な栄養不良は多くの場合、精神的・肉体的発育の阻害を伴い、貧困国にさらなる負担を課すことになります。

国連世界食糧計画（WFP）は最前線で活躍する世界最大の人道援助機関であり、食糧援助を通じて貧しい子どもたちの教育を支援しています。WFPは、過去40年余り開発途上国において学校給食プログラムを実施している世界最大の食糧援助組織です。アフリカのカンパラのスラム街にある石炭殻ブロックでできた学校や、ギニアの難民キャンプの泥を塗り固めて建てた学校などで、毎年数百万人の子子どもたちが、学校で学びながらWFPの食糧支援を受けています。

平均すると、1年間で約4千円（約20円で1日）あれば、1人の子子どもが学校で食事をとることができます。



世界の学校給食 キャンペーン

WFPは2001年、数百万人の子どもたちに教育の機会を提供し、教育環境を改善するための世界的取り組みを開始しました。このキャンペーンが目指すものは、支援を増加させ、教師のための研修や教室の改善といった衛生・保健・教育面のニーズを満たし、より多くの貧しい子どもたちが食事を得るだけでなく、確実に教育を受けられるよう保障することです。

この活動を通じWFPは国連教育科学文化機関（UNESCO）、国連児童基金（UNICEF）、世界銀行、世界保健機関（WHO）、および数多くの慈善団体とパートナーシップを結んでいます。

過去40年余り、学校給食活動の重要性を認めている援助国政府はWFPの取り組みに対する支援を続けています。



学校給食は各人の生活を改善し、読み書きのできる人々の社会を作っていく

- 就学率と出席率が著しく向上します。
- 空腹が満たされれば、児童は学習に専念できます。
- 子どもたちは少なくとも一日一度は栄養のある食事をとることができます。
- 家に居るのが当然とされていた女の子たちにも学習の機会与えられます。
- 親たちも子どもたちを働かせるよりも通学させることを選ぶようになります。
- 学校運営が通常どおりできない緊急時には、学校給食はたとえ仮設で実施されても、栄養のある食事を供給し、教育が中断されることなく行われるよう保障します。



子どもたちを 学校に通わせる

貧困国の子どもたちは生活のため家族を助けなければなりません。子どもたちは、農作業や庭仕事、幼い兄弟たちの世話、薪集めや食糧の調達をするため、学校へ行く時間も、経済的余裕も、またその余力も残っていません。

親が子どもたちを学校に通わせ、その子どもたちが休まず通学できるよう、WFPは政府や地方自治体、国際・国内援助グループと協力して、食糧をインセンティブ（動機づけ）として用いています。WFPは、就学率が最も低く学校給食の効果が最も大きな地域を絞り込み、学校給食プロジェクトの実施対象としています。こうした地域の貧しい学校では、WFPが食堂を建て、通学してきた子どもたちに温かい食事と栄養価のある軽食を提供しています。

食事は基本的なものですが、栄養強化された穀類ベースの飲み物、簡単な粥、または高エネルギー・ビスケットなどが配給されます。学校で食事が与えられると、出席率と成績は確実に向上します。調査の結果から、学校給食の実施によって、1年以内に就学率は2倍になり、2年間で最高40%もの学業成績の向上が認められています。

学校給食のもたらす恩恵を最も実感するのは子どもたちです。子どもたちは食事の心配をすることなく、学習に専念できます。

親もまた給食の恩恵を認識しています。子どもたちが学校に行けば一日一食は栄養のある食事をとることができ、家族の食費もそれだけ軽減されます。



緊急援助

WFPの学校給食支援は、単に「開発のための活動」ばかりではありません。WFPの緊急食糧援助活動を通じて、数百万の子どもたちが学校給食の対象者となっています。WFPの食糧援助の80%以上が、戦争や自然災害時の緊急援助です。こうした緊急時には、教育はいつ再開されるか見通しの立たないまま中断されることが多いからです。

WFPは難民キャンプあるいは仮設の居住区で他の支援団体と協力し、子どもたちに教育と食事を提供しています。ケニアのカクマ難民キャンプでは、祖国から戦禍を逃れてきたスーダンの子どものために、特別学校が設立されました。WFPの提供する学校給食に惹かれて、子どもたちは教室にやってきます。食糧を受け取ることで、戦禍で傷ついた子どもたちは平時の心を取り戻し、安心感を得ます。それが子どもたちの教育を確保する助けとなるのです。



平和構築

貧困や紛争など、子どもたちはさまざまな原因で心に痛手を負ってしまいます。子どもたちが教育を受け、平和を知るとは、人材育成のみならず、将来にわたりその地域や国家全体の発展・平和につなげるための重要な課題となります。

ようやく平和への道を歩み始めたアンゴラ、シエラレオネ、リベリア、そしてアフガニスタン。学校給食は、地域社会を安定させ、心に傷を負っている人々に正常な感覚を取り戻させる上で役立っています。

HIV/エイズ

HIV/エイズの蔓延は、地域の社会的・経済的安定を揺るがす非常に深刻な問題です。世界で4,200万人がHIV/エイズに侵され、その75パーセントがサハラ以南に集中しています。

母体でHIVに感染し、そのはかない人生の間ずっと苦しみながら亡くなっていく子どもたちが多数います。また世界では1,400万人以上もの子どもたちがエイズによって親を亡くし、その多くが生き延びるために苦難を強いられています。学校を辞めなければならない子どもたちもいます。

WFPは、このような子どもたちが学校に通えるようにHIV/エイズの深刻化する地域で重点的に学校給食を提供しています。WFPはこの活動を拡大し、孤児を養育している貧しい家庭が今後も継続して世話をできるよう、学校において「食糧持ち帰り」を配給しています。

女子教育の重要性

子どもたちを登校させるためのインセンティブとしてWFPは学校給食を実施していますが、食糧を家に持ち帰ることで、家族もWFPの配給を受け取ります。この取り組みは女子の教育向上という面で特に効果的です。

こうした「食糧持ち帰り」プロジェクトを通じてWFPは、娘たちを登校させる家族に、米1袋あるいは調理油1缶といった基本的食糧を供給します。これらの配給は、娘たちが労働しなくなったために親が被る損失を補償し、女子の教育の機会を確保するために実施されています。

WFPの過去10年に及ぶ女子に対する教育の重点施策は広く成功を収め、読み書きのできない女性が多い文化圏でも、女子の就学率、出席率が向上しました。出席率が300%近く向上した学校もあります。





- 世界で小学校に通っていない子どもたちの3分の2は女の子です。開発途上国の女性の半数は読み書きができません。
- 小学校に通い始めて4年以内に登校しなくなる子どもたちのほとんどが女の子です。
- 開発途上国で読み書きのできる女性は66%で、男性は81%です。世界で8億7,500万人いるといわれる読み書きのできない成人のうち、3分の2は女性です。アジアは男女間の教育の格差が最も大きい地域です。
- 国際食糧政策研究所の調査によれば、1970年から1995年までの間に子どもの栄養不良が44%減少した背景として、女性の教育の向上が寄与しています。

調理油と教科書 パキスタンの女子教育

11歳の女の子、ビビ・ジャワヘルはパキスタンのクウェッタ郊外の村にある2教室だけの女子校で自分の席に立ち、6年生を修了後もさらに学業を続けると述べてきた。同じクラスの11歳のサジャーダ・ビビもイスラム教科専攻のため高等教育へと進学する計画であるとの決意を語りました。

イスラム国家では、貧困と昔ながらの部族の慣習から、女の子を学校に通わせず、家で仕事を手伝わせる場合が多いのです。イスラム国家であるパキスタンでは、女の子がビビやサジャーダのような希望を抱くことはまれです。

パキスタンの女の子は、習慣として若くして結婚し家庭に留まるよう小さいときから教えられるため、クウェッタ郊外の農村部における女子の就学率は18%程度に過ぎません。さらに、国全体の識字率が37%というこの国では、女子の識字率は男子の識字率の半分です。ビビやサジャーダの住む、この乾燥し、地形の険しいバルチスタン地方では、殆どの女性が読み書きができません。

しかし、現在WFPの活動により、パキスタン全土で教育を受けているか、あるいは間もなく教育を受けることになる女子の数は、およそ26万4,000人に上ります。



WFPは1994年、1年生から5年生までの女の子が1ヵ月に20日以上通学した場合、一人当たり4リットルの調理油をその家庭に配給するという教育プロジェクトを開始しました。

今日では、パキスタン中の小学校で女の子たちが机を並べ、基礎的な読み書きと算数を学んでいます。数年前には想像もできなかった光景です。

クウェッタ郊外のこの学校は、WFPから調理油（調理の必需品で、だれもが欲しがる食糧）の配給の申し出を受け、関心を持った親たちのグループが村長を説得し、クラスとして利用できる小さな2部屋を確保したものです。

学校が開設されると、反響はあまりに大きく、通学を希望するすべての児童を受け入れることが無理だと判明しました。そのため、授業の多くが屋外で行われています。しかし、教室のスペースが不足しているにもかかわらず、女子の就学率はこの学校でも、バルチスタン地方全体でも2倍になりました。WFPは現在、国内34地域の3,300校でこのプロジェクトを実施しています。

バルチスタンでは、泥壁の家の外で女性を見かけることは今でもまれですが、母親たちは1ヵ月おきに調理油を受取りに学校へ出かけ、そこで、娘たちの勉学や成績について語り合うようになりました。

母親は、娘が教育によって得る可能性をすぐに理解しました。学ぶ機会が与えられることによって、将来より良い生活を送れるようになると口を揃えます。

WFPの支援により、今、女の子たちはそのチャンスをつかんだのかもしれない。





地域社会の改善

WFPの学校給食プログラムは子どもたちやその家族を支援するだけではありません。このプログラムがきっかけとなって、政府や地域社会が人々の生活改善に向け、具体的な一歩を踏み出す事例も多く見られます。

WFPは開発途上国の政府と協力して、教育を国の優先課題とし、教育制度を持続性のあるものとするために必要なインフラ（社会基盤）整備や管理体制、政策立案に携わっています。将来的には、インフラ整備と資金調達に加え、学校給食に関するすべての管理運営を政府が担うようになります。

WFPは子どもたちの親、学校の先生、地元公務員とも協力しています。彼らは自らの参加可能な時間、協力可能な物資、ときには現金などの提供を行っています。多くの場合、給食プロジェクトを運営するために親と先生からなるグループが組織され、地元の女性たちが食糧配給作業のために雇用されるケースも多くあります。親たちは新たに施設を建て、教室を修繕し、新鮮な野菜を供給し、あるいは当番を決めて輸送や調理を担当します。



環境教育と学校給食

現在、WFPの学校給食プログラムでは環境教育が組み込まれる機会が増えています。それは、学校給食が環境と密接に関係しているからであり、天然資源と地域社会の食の安全に強い結びつきがあるからです。子どもたちは、環境保護の必要性を短時間で理解し、自分には何ができるかを学びます。

また、WFPの学校給食プログラムで使用される薪や水も環境と密接に関係しています。学校給食の現場は、環境保護について学習するためのまたとないチャンスを提供します。



学校給食の効果

食糧で子どもたちを学校に惹きつけ、通学させ続けるというのは、あまりに単純な発想で効果的とは思われないかもしれません。しかし、今、貧しい子どもに栄養のある食事を提供することは、将来、読み書きのできる自立した成人を育成するための鍵となります。

学校給食は一人一人の子どもを対象に実施され、その結果、社会全体にとって目に見える効果をあげることができます。子どもたちの飢えを軽減し、教育を受ける機会を増やすことで、国の繁栄に欠くことのできない人材を育てるのです。

世界中で3億人に上る栄養不良の子どもたちに学校給食を実施することは実現可能だとWFPは確信しています。第2次大戦後、ヨーロッパ、アメリカ、日本などでは学校給食の取り組みが成功し、戦禍の中から1世代のうちに社会的・経済的にも力強く変貌を遂げました。同様のことを開発途上国で起こすことは可能です。

学校給食は、貧しい子どもたちが教育を受けた人間として人生を歩むことができるよう支援するための鍵です。一人の子どもが、1回の食事

を与えられ、学校で何かを学習する、この着実な積み重ねが変化をもたらします。

「子どもたちを学校に
通わせ、食事を与えるこ
とにより、生活の焦点を
飢え、貧困、暴力、紛争
から将来の希望やチャン
スに向けられることでし
ょう。」

ジェームス・T・モリス



子どもたちへの学校給食の提供にご協力いただける方々は、
次のようにご支援ください。

ご寄付

郵便貯金口座

口座番号：00290-8-37418

加入者名：国連WFP協会

通信欄に「学校給食への寄付」とご明記ください。

ボーダフォン チャリティダイヤル

ボーダフォンの携帯電話から「*5577」にかけ、

音声ガイダンスに従ってWFP 1番を選択すると、

WFPからのお知らせが流れます。

その通話料がボーダフォンを通じてWFPに寄付されます。

寄付についてのお問合せ先

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 6 階

特定非営利活動法人 国連WFP協会

Tel.: 045-221-2515

Fax: 045-221-2511

Eメール: jawfp-info@wfp.or.jp



United Nations

**World Food
Programme**

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜6階

国連世界食糧計画日本事務所

Tel.: 045-221-2510

Fax: 045-221-2511

ホームページ <http://www.wfp.or.jp>